








(共生環境学専攻長 渡邊 晋生 )

(副専攻長 村上 克介 )

## 学位論文審査の結果の要旨

専攻	共生環境学	氏名	Septaris Bernadetta Parhusip (セパタリス ベルナデッタ パルフシプ)
審査委員	主査教授	松村 直人	
	副査教授	石川 知明	
	副査教授	立花 義裕	
	副査准教授	板谷 明美	
	副査講師	松尾 奈緒子	
論文題目 (題目変更の有無) 有 ・ ○無	Community-based approach in forest conservation and rural development: Case study of rural areas in Japan and Indonesia (森林保全と地域振興における村落林業の取り組みー日本とインドネシアの地域研究ー)		
(論文審査の結果の要旨)			
<p>これまで熱帯林の減少などへの問題に対して、村落林業の観点から多くの研究がなされている。地域での盗伐や違法伐採、計画されていない伐採などへの対処には、地域住民を巻き込んだ解決策の提示が必要であり、その背景にある貧困問題への取り組みが重要である。</p> <p>本研究では、インドネシア・ジャワ島を対象に村落林業の観点から提案されたPHBMという人工林管理プログラムの導入後10年間以上の追跡調査の評価とジャワ島と三重県菰野町を対象に、国立公園などの保全対象地域を近隣に持ち、森林保全とキノコなどの森林からの副産物の利用や希少な野生動植物の保護と観光利用などの地域振興の観点を共有し、住民参加型の村落林業の可能性と新たな森林管理方策について分析と提案を行った。</p> <p>1) インドネシア・ジャワ島を対象に、村落林業の観点から提案されたPHBMという森林管理プログラムについて分析した。このプログラムは国有の森林会社プルフタニによって、ジャワ島では、2003年から実施された。当初、人工林の間伐作業を支援するために、地域住民に森林へのアクセス権を与え、収入を増やすのを助けると期待された。そして、林間栽培（アグロフォレストリー）によって、住民に新たな現金収入の可能性を与えるものと歓迎された。本研究は、PHBMプログラムへの地域住民の参加の影響を分析することを目的とした。</p>			

地域住民の経済振興の可能性について、共同研究者らの先行調査（2005/2006年、2006/2007年、2008/2009）に基づき、ジャワ島西ジャワ州ボゴール地区のDesa Ciomas村を対象に、調査を継続し、2016年の追跡調査によって、最近の状況を観察し、これまでの研究の最終的な取りまとめを行った。

その結果、Desa Ciomasの地元の人々はPHBMとそれが提供する利点に引き続き非常に興味を持ってはいるが、短期的な追加収入や大規模農業が必要となった場合など、最適な収入が得られない場合があるとの感想をもっていた。しかしながら、家族労働よりも収益性が低いことが知られている雇用労働に対応する農業システムやPHBMの農場内外の活動に関して、彼らに権限を拡大・強化することによって、地元の人々の収入増加に貢献できることが明らかとなった。

2) 村落林業における地域住民の参加については、社会条件や政治条件に依存し、その成否もそれらの条件に深く関わっている。本研究では、インドネシア・ジャワ島のタマン・ジャヤ村と三重県菰野町を対象に、森林保全と地域振興の観点から比較研究を行った。

対象地は、国立公園などの保全対象地域を近隣に持ち、森林保全とキノコや燃料材などの森林からの副産物の利用や希少な野生動植物の保護と観光利用などの地域振興の可能性を共有し、住民参加型の村落林業の可能性と新たな森林管理方策の検討が期待される地域である。

両地域において、ある程度共通化した住民アンケート調査を行い、森林資源管理に関する意識、期待などを分析した。

その結果、年齢、男女、最終学歴などの属性について、両地域での対照的な回答が見られた。タマン・ジャヤ村では、森林へのアクセスが制限され、森林利用についても、各属性によって行動の差や期待する価値に関して大きなばらつきが見られた。また、森林保全による野生動植物の保護や観光振興に関しても期待が大きかった。

一方、菰野町では、森林を身近に感じ、その価値を認めつつも、資源利用に関する直接的な行動意欲は希薄で、行政に任せるような意向が多かった。これらの結果は、アンケートによる直接的な回答と回帰モデルとクラスター分析の内容からまとめられた。

総じて、菰野町のアンケート回答者の属性は比較的均一で、高校卒業程度以上の高学歴者が多く、一方、タマン・ジャヤ村では、年齢、最終学歴のバラツキが大きく、回答内容に大きく影響したものと考えられた。これらの結果から、開発途上国と先進国において、多様な森林資源管理に関する住民参加の観点から、有益な政策導入の課題が示された。

以上の研究成果をまとめた学術論文は、国内および海外向けの審査制度の確立した英文学術誌に既に掲載、及び受理されている。また、国内、海外で開催された森林計画関係の国際シンポジウムでも口頭発表を行い、多くの研究者から高い関心が寄せられた。このように、本博士論文は博士（学術）の学位を授与するに値する優れた業績であると認めることができる。以上のことから、本論文が博士学位論文として十分な価値を持つことを審査委員全員一致で認め、論文審査結果を合格とした。